

# 都立公園等指定管理者評価委員会（第6回）

## 次 第

令和5年8月8日（火曜日）  
13時15分から16時30分まで  
都庁第二本庁舎5階 5B会議室  
（Web会議併用）

### 1 開会

### 2 議事

(1) 説明（事務局）

(2) 事業者の財務状況について

(3) 各施設の評価検討及び決定

- ① 都市部の公園・東部グループ【アメニス東部地区グループ】
- ② 都市部の公園・南部グループ【東京南部パークスグループ】
- ③ 都市部の公園・北部グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ④ 武蔵野の公園グループ【西武・武蔵野パートナーズ】
- ⑤ 多摩部の公園グループ【西武・多摩部の公園パートナーズ】
- ⑥ 狭山丘陵グループ【西武・狭山丘陵パートナーズ】
- ⑦ 多摩丘陵グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑧ 大神山公園【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑨ 防災公園グループ【公益財団法人東京都公園協会】

休憩（10分）

- ⑩ 文化財庭園グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑪ 神代植物公園【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑫ 夢の島公園・夢の島熱帯植物館【アメニス夢の島グループ】
- ⑬ 潮風公園・台場公園【東京臨海副都心グループ】
- ⑭ 横網町公園【公益財団法人東京都慰霊協会】
- ⑮ 東京臨海広域防災公園【西武造園(株)・(株)NHKアート共同体】
- ⑯ 都立動物園【公益財団法人東京動物園協会】
- ⑰ 東京都霊園【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑱ 瑞江葬儀所【公益財団法人東京都公園協会】

### 3 まとめ

### 4 事務局連絡事項

### 5 閉会



グループ名	都市部の公園・東部グループ
指定管理者名	アメニス東部地区グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
1	猿江恩賜公園	B	・猿江恩賜公園では、「ぶちボランティア」として近隣住民・地元企業と連携したチューリップ球根の植え付け（約10,000球）を行った。地域一帯で作り上げた花壇という認識が広まり、猿江恩賜公園の愛着向上につながる結果となった。また、消防署、町会、小学校等と協力して「防災フェスタ」を実施し、地域防災力の向上に貢献した。特に、小学生向けの防災マップの作成では、自宅から公園までの自動販売機設置位置を地図に記録させるなど、防災教育に協力した。その他、新しい緑の価値創造を目標にした千葉大学との共同研究の成果が、公園内動線の改良など具体的な取組に活かされることを期待したい。	B
2	亀戸中央公園	B	・亀戸中央公園では、「自然観察会」、「遊びキャラバン」のほか、子ども向けのイベントに多く取り組んだ。特に、公園発生材を使用した工作イベント「竹で水鉄砲を作ろう」、「クリスマスリースを作ろう」、「ミニ門松を作ろう」には、子どもの参加者のみならず幅広い世代が参加し、感謝の声を受けた。	B
3	尾久の原公園	A	・尾久の原公園では、「こどもボランティア」として子どもたちが花への灌水作業・花壇の植替えを行うなど、主体的にボランティア活動があった。また、地域協働イベント「森のマルシェ」を実施し、公園の魅力向上に貢献した。特に、8月末に企画した「作れ秘密基地」、「夜の自然観察会」は幅広い世代が参加し、地域の絆が深まる結果となった。その他、閉鎖区域の再開以来、公園の魅力づくりの成果が見られており、公園の入り口付近の事務所及び事務所周辺についても、一層の魅力づくりの工夫を期待したい。	A
4	東綾瀬公園	B	・東綾瀬公園では、迷惑行為や危険行為に対して巡回等にて注意・声掛けを行ったほか、告知看板の設置など適切な措置をとった。特に、所轄警察との協力による夜間巡回や、C地区の騒音への苦情に対し苦情者への適切な対応を行った上、巡回の徹底や注意喚起看板を設置することで迷惑行為を激減させることができた。さらに、都民からの要望に対し、調査・検討・協議など迅速に対応した。公園の特性上、入園者と単なる通過者の区別をより振り分けられる工夫を期待したい。なお、ハーブを中心とし、自然の雰囲気を活かした花壇は味わいがあり評価できる。公園の特徴を増やすためにもこのような領域が増えることが期待される。	B
5	中川公園	B	・中川公園では、地元小中学校との協働による農園作りとして各学校のボランティアによる日常手入れを実施し、年間を通して約900人が参加した。また、ボランティアとの協働によるA地区1階のバラ花壇の管理について、年間を通して約90人が参加し、利用者間の交流の場づくりや公園の魅力向上につながった。	B
6	大島小松川公園	B	・大島小松川公園では、パークミーティングを通じての公園管理及びスケートボード利用者との調整を行ったほか、新たに、地域と連携した防災プログラムを展開するなど都民協働に取り組んだ。また、遊びキャラバン「コキアのホウキ作り」、「クリスマスリース作り」は、公園の発生材を活用することで参加者が関心を引きつつSDGsの内容を盛り込んだプログラムとなった。	B
7	宇喜田公園	B	・宇喜田公園では、ハーブボランティアによる花壇づくりの一環で花束を作成・配布するなど、公園の魅力向上に寄与した。特に、6月は延べ152人が活動に参加し、単月の活動人数として過去最高となるなど、地域に欠かせない取組となっている。	B
			・東綾瀬公園では、車検切れの車両を使用する事故が発生した。	B

グループ名	都市部の公園・南部グループ
指定管理者名	東京南部パークスグループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
8	日比谷公園	S	<p>・グループ全体の取組として、コロナ禍の中で積み上げた日常的な都民参加による魅力づくりのノウハウを活用した協働事業や公園ライフを豊かにするような催しを増やした。また、地域遺伝子の継承の取組として、歴史的樹木の保全や後継木の育成、景観の保全を継続するとともに、ナラ枯れの防除及び拡大防止に努めた。</p> <p>・日比谷公園では、第二花壇芝生地を特別開放しテラス空間を創出する「HIBIYA PARK SHIBAFU TERRACE」を前年に引き続き実施した。手づくりをテーマとしたマルシェなど上質かつ多様な自主事業を展開したほか、デザイン性の高い会場の設営、夜間開催、特設HPによる広報強化等の取組により前年度比622.1%となる8,641人の来場があり、日比谷公園を代表するイベントにステップアップさせた。また、園内の主要樹木を謎解き形式にて巡るスマートフォンアプリ「樹木からの謎解き」のキャンペーン展開によって利用促進を図ることで1,570人の参加を呼び込んだ。幅広い世代に都心の自然資源と触れ合う機会を提供し、日比谷公園の価値をさらに高めた。</p>	S
9	芝公園	B	<p>・芝公園では、港区民参画組織「まちの魅力発掘部会」との共催で公園管理所職員が公園の魅力を紹介するガイドツアーや、港区観光大使と連携した歴史ガイドツアーを実施した。また、アンケート調査結果の数値と入園者数が近年共に増加しており、コロナ禍による制約が残る中、工夫を凝らした取組を進めた点とその成果は評価できる。</p>	B
10	青山公園	B	<p>・青山公園では、青山公園北・南両地区の地域関係者が集まるパークミーティングの場を設け、今後の公園運営につながる意見交換を行った。</p> <p>・林試の森公園では、ジャブジャブ池の事前予約・定員制による運営を継続し、事故・トラブル等を未然に防ぎつつ安全・安心な水遊びの環境を提供した。また、地元町会、消防署及び近隣保育園など多様な主体と連携し、防災をテーマにした「地域連携フェスタ」を開催し、初期消火訓練等の防災体験学習に関するイベントを実施した。初めて品川区防災課との連携が実現し、関東大震災100年にあたる年に地域全体の防災意識向上に貢献する取組となった。</p>	B
11	林試の森公園	A	<p>・蘆花恒春園では、園内保育園と連携した「かやぶき屋根のお話会」の企画・実施により、文化財の活用促進と地域交流の場を創出したほか、園内のみならず地域全体の魅力を利用者に伝えた。</p> <p>・祖師谷公園では、「祖師谷公園樹木の会」と連携し、樹木クイズラリーを開催した。記念品を毎回楽しみにしているというリピーターも多く、都民協働により公園の魅力を発信している。また、ハーブ花壇ボランティアとの連携により、6月にラベンダーの摘み取りとラベンダースティック作りを行い、花壇ボランティアの参加意識の醸成や増員につながった。</p>	A
12	蘆花恒春園	B	<p>・日比谷公園大音楽堂では、通年にわたり土日祝の音楽会利用を可能とし、利用者が昨年度比で197%となり大幅に増加した。また、昨年に続き野音オープンデーを実施し、雨天にも関わらず事業計画を上回る約1,300人の来場者を記録した。約100年にわたる歴史をパネルで紹介するとともに、100周年記念事業の告知を行うなど、日比谷公園大音楽堂が果たしてきた役割や存在意義をPRすることで施設の魅力発信に寄与した。さらに、「日比谷音楽祭2022」を3年ぶりに有観客・オンライン生配信の構成で実施し、事前収録のトークショーやワークショップ等と併せてコンサートの模様を配信したことで、3日間で視聴者数約20.8万人、総再生回数約38万9千回の視聴を記録した。テレビや新聞、WEB等の多様な媒体で取り上げられるなど、メディアを通じ、日比谷公園大音楽堂の魅力やレガシーを効果的に発信した点は評価できる。</p>	B
13	祖師谷公園	B		B
14	日比谷公園大音楽堂	A		

グループ名	都市部の公園・北部グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
15	戸山公園	A	<p>・グループ全体の取組として、台風や降雪等の気象災害対応とともに、荒川下流域氾濫に備えたタイムライン訓練を実施し、対応力を向上させた。また、各公園において、地域的なテーマやニーズに応える企画を行うことで、多様な都民の参加を生み、公園施設の魅力づくりにつなげた点は評価できる。</p> <p>・戸山公園では、目の不自由な方を対象とした避難訓練を初めて実施した。併せて、近隣の日本語学校と連携し、30か国以上、約600人の学生が参加する防災訓練を実施した。また、企業や野球チームなど地域の様々な主体と連携して、公園美化の推進に努めた。</p>	A
16	善福寺公園	B	<p>・善福寺公園では、関係自治体、NPO及び民間企業10団体と連携し、ネイチャーイベント「LOVE!善福寺公園」を開催した。約1,500人が参加し、公園の自然や魅力を発信することができた。また、子どもたちの関心を引き込む仕掛けとして開催した出版社との連携による読み聞かせイベントは約450人を動員し、連携先の拡大とともに幅広い世代を対象とした公園体験・自然体験の場となった。</p> <p>・高井戸公園では、子どもボランティアによる「お水あげ隊」、「石ひろい隊」に令和4年度累計1,000人以上が参加し、子どもの仕事体験になるだけでなく、園内美化に寄与する貴重な取組となった。特に「石ひろい隊」は、公園造成に伴い発生したガラ石の処分貢献しており、安全安心な公園空間づくりにつながっている。また、近隣の小中学校のほか、区の防災課や地域防災コーディネーターと連携した防災訓練を実施するなど、地域連携の輪を広げた点は評価できる。その他、高井戸公園は開園後まだ数年であり、高木が少なく日陰も少ないことから、樹木が育つまでの間の熱中症対策として、一定範囲で日陰を人工的に作るなどの取組が期待される。</p>	B
17	高井戸公園	A	<p>・浮間公園では、地域10団体の協議会メンバーが主体となり、地域の子どもや子育て世代を中心に楽しめるイベント「キッズスマイルフェスタ」や地域の飲食、物販、ワークショップ等が出店する新規イベント「UkiUkiマルシェ」を開催した。それぞれ約8,000人が来場し、公園に新しい賑わいを創出した。また、チューリップの植え付け事業は、積極的な広報・PRを展開しながらクラウドファンディングにより事業経費を調達するなど、工夫を凝らした取組となった。</p>	A
18	浮間公園	A	<p>・赤塚公園では、ボランティア5団体と板橋区との連携により「どんぐりまつり」を開催した。地域のボランティアや自治体との連携を深め、新しい試みとして実施したクイズラリーには約750人(前年度の2倍以上)が参加することで、公園の魅力を伝えボランティア活動への興味関心を高めることができた。また、近隣高校と連携した清掃活動を拡大により多世代交流を実現したほか、ボランティア活動の活性化を通じ園内の美化意識の醸成にも寄与した。</p>	A
19	赤塚公園	B	<p>・石神井公園では、親子連れを含め幅広い世代に生物多様性の魅力を発信するため、「蝶々園」を新たに開設した。1930~40年代の地域文献等を参考に蜜源や食草を選定し、初年度から50種のチョウの誘致に成功した。また、専門家を招いた体験型観察イベントを新たに4回開催するとともに、SNS等による広報発信を行うなど、生物多様性に関する普及啓発を強化している。一連の取組は注目を集め、日本鱗翅学会第68回大会で職員が講演を行うなど、評価を受けた。</p> <p>・大泉中央公園では、プレイパークの主催NPOと連携し、子ども達を対象とした自然観察会「みる・さわる・たのしむ」キッズプロジェクトを開催した。越冬中の虫を観察できる「虫たちのかくれ家ののぞき窓」を設置するなど、自然や生物多様性を実感できる機会を提供し、年間41回、延べ528名の参加につながった。観察会をきっかけに来園回数が増えた家族もおり、公園の魅力向上につながる取組となった。</p>	B
20	石神井公園	B		B
21	大泉中央公園	B		B

グループ名	武蔵野の公園グループ
指定管理者名	西武・武蔵野パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
22	武蔵野公園	A	<p>・グループ全体の取組として、公園の楽しみ方を発信する「むさしのパークライフマガジン」を発行し、公園で出会えるきのこの種類と探し方や公園で見られる野鳥について特集した。電子化したマガジンをHPで公開するとともに、WEBサイトにて冊子の閲覧・ダウンロードを可能にしたことで、公園や周辺エリアの魅力を広く発信することができた。また、東京農工大と協働し4公園でナラ枯れの被害状況を確認したほか、枯死木の伐採、動植物モニタリングによるナラ枯れの影響調査を行うなど、グループ全体としてナラ枯れ対策に重点的に取り組んだ。さらに、生物多様性の保全に配慮した維持管理の実施により、エコロジカルネットワークの強化や累計148種の希少種の生育確認を実現した。その他、緑地保全や景観形成についての市民参加のノウハウが集積され、グループ内で共有することで専門性を高めた点は評価できる。</p>	
23	浅間山公園	A	<p>・武蔵野公園では、じゃぶじゃぶ池のポンプ故障時に汎用ポンプ増設によって迅速に対応し、夏の安全・安定的な稼働を実現した。また、樹木特性を踏まえた維持管理計画を作成し、維持管理作業時の状況確認に加え、作業から9か月経過時点の樹木状況や景観向上の効果を再確認する植栽管理PDCAサイクルが確立された。また、「サクラ再生プロジェクト」の継続的な実施により、6年間にわたり育苗した後継樹の苗木10本を園内各所に定植させた。</p>	A
24	野川公園	S	<p>・浅間山公園では、樹病学を専門とする東京農工大フィールドサイエンス教育普及センターとの連携によりブナ科樹木のナラ枯れ被害状況の全数調査を行った。ナラ枯れによる生態系への影響にも注目し、調査結果を踏まえた維持管理につなげている。また、浅間山の地域活動団体等により構成される会議体「浅間山を考える会」の現地確認会を開催するほか、浅間山のイベントや保全、施設等の課題や検討事項に関する意見交換を継続しており、施設修繕や外来種駆除など、来園者の安全確保や生物多様性保全の取組につなげている。</p>	S
25	狭山・境緑道	B	<p>・野川公園では、パークコーディネーターが多様なボランティアニーズを的確に捉え、コロナ禍から講座・イベント等の活動を再開させるなど、ボランティア活動の活性化につなげた。また、インターナショナルスクール4校との連携により、生物多様性・生態系・外来種に関する体験型学習の場を創出し、多言語による効果的な環境普及啓発を実現した。さらに、自然観察園の木道劣化状況について、危険性の高い箇所から迅速に補修作業を実施し、自然観察園利用者の安全確保に努めた。</p>	B
26	玉川上水緑道	B	<p>・狭山境緑道では、気象災害等による倒木を未然に防止するための樹木管理のほか、手すり設置等の施設改善要望への対応など、緑道内の安全確保及び適正利用に関する取組を推進した。また、近隣住民との協働による花壇づくり「ガーデンパートナー制度」を継続するなど、適正利用を促しながら都民協働により魅力ある緑道づくりを進めている。</p> <p>・玉川上水緑道では、右岸左岸あわせて約50kmの範囲にわたりナラ枯れ被害樹木の点検を実施し、緊急度に応じた剪定計画を定めた。また、一番橋エリアの高木化した樹木の倒木不安の声にも配慮し、近隣住民との現地調査や丁寧な説明を行い、適切な樹木管理を実施した。</p>	B
27	武蔵国分寺公園	S	<p>・武蔵国分寺公園では、地域の声から生まれた音楽イベント「こくフェス（うくフェス）」を初開催し、多くの参加者を呼び込むとともに、アーティストの発表機会や市民活動実現の機会を創出した。また、多世代交流を促しコミュニティを生み出すイベント「Sunday Park Cafe」は、市民団体との新規連携のほか、地域の方々による週替わりのワークショップが実施されるなど、地域コミュニティを育む場として機能した。さらに、武蔵野の池再生プロジェクトとして植生帯を増強したほか、水鳥の越冬地としての機能充実に図り生物多様性の向上を実現した。</p>	S
28	東伏見公園	B	<p>・東伏見公園では、駅のホームをイメージしたベンチが設置された新規開園区域について、鉄道沿線情報誌との連携による広報展開がされた。また、野鳥観察や犬の散歩に関するマナー向上に関する啓発運動を継続実施しており、マナー向上・園内美化の機運醸成につながっている。</p> <p>・六仙公園では、「防災キャラバン in 六仙公園」を3年ぶりに実施した。指定管理者・地域関係者・地元自治体が構成する実行委員会により企画・プログラムを展開し、参加者が楽しみながら防災知識を得られる場を提供した。</p>	B
29	六仙公園	B		B

グループ名	多摩部の公園グループ
指定管理者名	西武・多摩部の公園パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
30	陵南公園	A	<p>・グループ全体として、各公園が独自性のあるテーマを設定して企画を練り、都民協働の輪を広げながら実施している。掲げるテーマが明確なことで、関わる都民それぞれが、主体的に創意工夫できる参加の場が生まれている。</p> <p>・陵南公園では、地域イベント「八王子いちよう祭り」に企画段階から関り、イベント全体で21万人の動員を達成するなど、多数のプログラム展開や出展により公園の賑わいづくりにつながる取組となった。また、地元小学校との連携によるレンジャーパークプログラムの実施により子ども達の自然への興味関心を喚起したほか、年間を通じた体操イベントを実施するなど、地域の多世代交流・健康づくりの場を創出している。</p>	A
31	小宮公園	A	<p>・小宮公園では、子育て世代を対象としたイベントやシニア世代を対象とした地域病院と共催の体操イベント、小学生を対象とした環境教育講座など、多世代に向けニーズに対応したイベントを展開することで、公園の環境教育拠点としての魅力を発信した。また、6年間継続して取り組んだ園内絶滅種アカガエル2種の復活プロジェクトにより、ヤマアカガエル、ニホンアカガエルの卵塊を確認するなど、里山生態系の多様性の向上を実現した。</p> <p>・滝山公園では、シロアリ被害等による引橋の部材劣化状況を受け、親柱、笠木、地覆、床板の交換を行い、来園者が急増する桜祭り前に迅速かつ丁寧に補修を完了させた。また、地権者が複雑に絡み合う共用部分の園路について、自治体、地域住民との連携により協働で清掃・補修を行っている。その他、地元NPO団体と「遺構を見せる維持管理計画」を作成し、様々なプログラムで活用することにより、山城跡ならではの公園の魅力を発信した点は評価できる。</p>	A
31	滝山公園	B	<p>・大戸緑地では、景観、眺望の観点を重視し、山桜の丘からかつての眺望の復元につながる林床整備を行い、質の高い緑地整備を行った。また、モリアオガエル保全のため、ピオトープ周辺への植栽、発生材で作成した産卵用支柱の設置、ピオトープ周辺樹木の枝の保養を実施した。これにより、モリアオガエルの産卵に適した樹木の枝が増え、樹木の枝への産卵数が大幅に増加した。</p>	B
33	大戸緑地	A		A

グループ名	狭山丘陵グループ
指定管理者名	西武・狭山丘陵パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
34	狭山公園	S	<p>・グループ全体として、長年の都民協働の取組が定着し、その上に更なる多様な取組が生まれており、協働体制の成熟度が高い点が評価できる。また、狭山公園の「キッズレンジャー」、東大和公園の「雑木林ようちえん」など、子どもの自然体験を豊かにするプログラムは、さらに未来に向けた都民参加の環境形成と共に、人づくりに資する点から評価できる。</p> <p>・狭山公園では、狭山丘陵観光連携事業推進協議会との共催により3年ぶりに開催した「さやまKIDSDAY」にて、哺乳類の剥製展示のほか、親子・子どもを対象とした自然体験プログラムを継続実施するなど、公園を含めた狭山丘陵の魅力を発信した。子育て世代を対象としたイベントの充実により、子育てに優しい施設を市民が選ぶアンケート調査にて2年連続で総合1位となった。また、キッズレンジャーの養成やボランティアとの協働による公園管理も多岐に渡って実施している。さらに、橋の長寿命化や景観向上に配慮した塗装工事、ビュースポット創出につながる枯損木伐採や下草処理など、維持管理に関する取組も充実している。</p>	S
35	八国山緑地	B	<p>・八国山緑地では、散策マップを更新・配布し、衛星公園や周辺施設への回遊性を持たせたウォーキングイベントを実施した。気軽に参加できるボランティア体験プログラム「ちょこっとボランティア」や「さとやま体験」のほか、ナラ枯れ発生材を活用したクラフトイベントの展開など、八国山緑地の里山としての歴史を学び、保全活動や資源循環を伝える機会を創出した。</p>	B
36	東大和公園	B	<p>・東大和公園では、アカマツ生育状況の追跡調査や幼木の発芽を促すための地掻きを実施するなど取組の継続強化を図り、生物多様性の向上に寄与している。また、地域住民や公園ボランティアとの協働作業による細やかな維持管理の継続により、消失が懸念されたミゾコウジュを復活させた。センブリも初確認され、希少植物の保全に効果をあげている。</p> <p>・野山北・六道山公園では、都民協働部スタッフが細やかな調整を行い、ボランティア活動18種類のうち15種類の活動を再開した。畑や花壇の管理など親子でも参加しやすい活動をPRすることで参加者を増やすなど、都民協働の取組を継続させるだけでなく、より拡充させている。また、里山民家周辺の木橋を改修し、安全対策と施設の長寿命化を図ったほか、希少種の保全にもつながるきめ細やかな林床管理や湿地管理を行うなど、維持管理の取組の充実が見られる。</p>	B
37	野山北・六道山公園	S	<p>・中藤公園では、3年ぶりとなるガイドウォークを実施し、狭山丘陵・中藤地域の歴史や希少な里山環境を学べる場を提供した。また、ナラ枯れ後の樹林再生に向けたコナラの実生採取について、本公園では初めてとなる都民協働事業として実施し、ナラ枯れ収束後の新しい雑木林管理を協働で行う足掛かりとなった。その他、園内の哺乳類生息状況調査の実施で絶滅危惧種を含む4種の在来種の生息が確認された点は評価できる。中藤公園独自の魅力づくりのきっかけとなることが期待される。</p>	S
38	中藤公園	B		B



グループ名	多摩丘陵グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
39	長沼公園	A	<p>・グループ全体としては、多摩丘陵の公園キャラクター「たまきょうりゅう」を作成し、イベントで活用することで、多摩丘陵一体となった公園の魅力向上につなげた。また、桜ヶ丘公園等においてボランティアとの連携により計画的な樹林地管理を実施している点は評価できる。</p> <p>・長沼公園では、9月大雨後の巡回中に園路の法面崩落を発見し、緊急措置として園路の通行止め及び仮復旧を行った。仮復旧に際して野生生物や丘陵地景観に配慮した濃いグリーン色のシートやネットで法面を保護し、園路が開放されるまで定点観測等で安全確認を実施した。また、今後の都の園地改修工事に向けて、現地被害状況の詳細を都に情報提供を行った。長沼公園は上総層が露出しており生痕化石に恵まれているため、イベントや教育事業での活用が期待される。</p> <p>・平山城址公園では、モニタリング調査により、南多摩地域における絶滅危惧Ⅱ類に指定されているクロムヨウランの新たな自生地が確認された。保護策として、踏圧や草刈り防止のために竹串で目印を付けたほか、周辺に散乱する落枝等の除去を行った。これらの活動により、クロムヨウランを含む貴重な在来種による生態系を維持することができた。</p>	A
40	平山城址公園	B	<p>・小山田緑地では、動植物にとって良好な生息環境の維持にあたり下草刈りを的確に実施したことで、タマノカンアオイなどの希少植物の増加のほか、最多発光数のゲンジボタルやエノキの根本に生育する新たなオオムラサキ幼虫などが確認された。</p> <p>・小山内裏公園では、外部専門家の助言を受けながら、ゲンジボタルの生息環境改善に取り組んだ。ため池の設置と水路の改修・整備により、数年来の川底の干上がりが解消された。また、園内の維持管理作業で発生した丸太を水路改修に用いたことで、施設修繕とともに多様な生物の生息環境向上にも寄与した。その後のモニタリング調査において最多発光数のゲンジボタルが確認され、助言を受けた専門家からは、環境改善と保全の起点になりえるとの高い評価を得た。そのほか、カタクリの種子の採取・播種も続けており、播種した株の開花が初めて確認された。</p>	B
41	小山田緑地	A	<p>・桜ヶ丘公園では、ボランティアとの協働でゲンジボタル等に象徴される水辺生態系の保全作業や外来種の除去作業を行った。専門家による現地調査で生息環境の質向上が高く評価されたほか、希少種であるクロヤツシロランの増加が確認された。また、展示解説・工作体験などのプログラムを提供する「SATOYAMAアウトドアライフ」について、外部協力者の募集を行い、地域で活動する団体、図書館及び大学等に参加協力を働きかけた結果、12月に近隣自治会の子ども会役員による参加協力を実現したほか、令和5年度以降の参加に向けた複数団体の活動見学などの成果を得ることができた。</p>	A
42	小山内裏公園	B		B
43	桜ヶ丘公園	S		S

グループ名	大神山公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
44	大神山公園	A	<p>・小笠原小学校との新規連携により、南海トラフ沖地震を想定した地域連携避難訓練を行った。訓練参加者あてに関係各所の連絡先を記入した防水の緊急連絡カードを配布するなど、地域防災力の向上に寄与した。また、海岸のマイクロプラスチック回収・啓発活動では、社会福祉協議会と連携したことで約380人の島民の参加があった。加えて、環境省等が開催する全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」では、世界自然遺産センターやNPO法人と連携し、漂着ごみの回収などの海岸清掃を行った。</p>	A

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
45	東白鬚公園	B	<p>・グループのうち複数の公園について、「こどもの庭」などの遊び場づくりや、マルシェ・カフェなどのサードプレイスを設定するなど、都市の公園のあり方へのニーズを踏まえた取組を新たに進めた点は評価できる。</p> <p>・東白鬚公園では、近隣保育園の園児等のボランティア活動で手入れされる「こども花壇」を新設した。「こども花壇」は、地域の子も達が花の成長過程を学ぶ場になるとともに、子どもから高齢の方まで幅広い人々が交流する場となった。</p>	B
46	木場公園	B	<p>・木場公園では、地元木場の歴史を学び、木に触れる体験を楽しんでもらう「木育」の機会として野外アートプログラムを実施した。プログラムのうち木材コースター作りでは、広葉樹・針葉樹の違いを解説したほか、参加者が丸太から材料を切り出す工程を設けるなど、内容の充実を図った。アンケートでは「楽しかった」、「普段できない体験ができた」などの声が多く寄せられ、満足度の高いプログラムとなった。</p>	B
47	砧公園	A	<p>・砧公園では、ユニバーサル遊具が設置された「みんなのひろば」について、公園連絡協議会で利活用・理解促進を図るためのイベントを開催した。障がい者支援団体等との連携により、子どもたちが園内でお絵描きや花の手入れなどを行うイベントが実現し、約130名が参加した。また、3年ぶりにクロスカントリー走のイベントを開催し、参加者及び公園利用者の安全のため、園内の段差解消や注意を喚起するピクトグラム看板の設置などを行った。この結果、イベント参加者から多数の好意的な意見が寄せられた。</p>	A
48	駒沢オリンピック公園	A	<p>・駒沢オリンピック公園では、都事業「花と光のムーブメント」による園内ライトアップに合わせ、夜間のコンサートを開催した。ステージ周囲にキャンドルを灯して雰囲気盛り上げることで両事業に相乗効果が生じたほか、音楽によって新しい公園の魅力を創出した。また、開園記念日を地域全体で祝うイベントとして「駒沢ファンタジア」を3年ぶりに開催し、世田谷区で活躍する学校や団体、店舗による野菜・花苗の販売、ハンドメイドのワークショップ等、地域に根差した内容を含んだことで、地域の活性化に寄与した。</p>	A
49	代々木公園	S	<p>・代々木公園では、「バラフェスタ」にて「アロマソルト作り」のプログラムを追加するなど新たな取組を行った。目玉プログラムとなった「野外ミニシアター『ローズメイカー 奇跡のバラ』上映会」では、公園の開放的空間を活用した野外映画館をつくるなどの斬新な内容でイベントを盛り上げるとともに、幅広い層に園内のバラの魅力を訴求した。また、クラウドファンディングによるバスケットボールコートのリノベーションを実現したほか、園内約1.6kmのコースを走った記録をアプリにアップロードすることでレースに参加する「オンラインマイクロレース」イベントを企業連携により実施し、公園の魅力向上や楽しみ方の拡大につなげた。</p>	S
50	善福寺川緑地	B	<p>・善福寺川緑地では、園内の紅葉を楽しむノルディックウォーキング体験や自然観察会など複数イベントを同日に開催し、1日を通して公園全体の魅力を体験可能な機会とした。多世代に向けて都心の自然の豊かさを伝え、公園への愛着を一層高めることができた。</p>	B
51	和田堀公園	A	<p>・和田堀公園では、絶滅した水草「コウホネ」の和田堀池への復活プロジェクトに取り組んだ。自然とのふれあいイベントとして、参加者に園内の生物多様性保全活動に係る資料配付やガイドを実施し、コウホネ復活を含めた活動の普及・啓発することができた。</p>	A
52	汐入公園	B	<p>・汐入公園では、園内のハーブガーデンで栽培するハーブを活用し、愛犬と一緒に使えるハンドクリームやケアスプレー、愛犬との散歩に使えるトートバッグを手作りするワークショップを開催した。この取り組みは、ハーブガーデンの魅力発信とともに、ペット連れ利用者のマナーアップにつながった。</p>	B
53	城北中央公園	B	<p>・城北中央公園では、利用者から苦情・要望が多かった野球場・広場等の排水不良について、計画を前倒して補修作業を実施した。また、都から要請があった施設名称等の標識設置や桜の移植受入れに対し、迅速に対応した。</p>	B
54	光が丘公園	B	<p>・光が丘公園では、別団体が3年ぶりに開催する「JA東京あおば農業祭」との連携により、公園主催の秋の恒例イベント「光が丘公園フェスタ」を開催し、2万人超の参加があった。より一層の地域活性化につなげることを目的とした共同開催であったが、地域の方との連携に加え、「公園フェスタ」、「農業祭」という異なる客層が融合したことで新たな地域振興イベントとなった。</p>	B
55	舎人公園	A	<p>・舎人公園では、地域連携防災訓練を年4回実施し、合計249人が参加した。このうち10月の訓練は、首都直下地震により舎人公園駅で多数の負傷者が発生したとの想定で実施され、ヘリコプターやDMAT(発災直後から活動する機動的な医療チーム)が出動するなど、実践的であった。また、訓練実施にあたっては、地元消防署だけでなく東京女子医科大学付属足立医療センターとも新たに連携することで、地域の防災力を一層向上させた。</p>	A

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
56	水元公園	A	<p>・水元公園では、直営で高所作業車を使用した高木剪定を計画的に実施し、景観維持と枯枝の落下防止に取り組んだ。また、グリーンプラザ温室の老朽化対策に集中的に取り組み、効果的かつ適切な施設維持管理を実現している。</p> <p>・篠崎公園では、都が実施する高台化工事について、都との連携を強化しつつ工事業者等との協議を重ねることで、利用者の安全確保と利用上の不便解消に努めた。この結果、工事に対する苦情要望が抑制され、高台化工事の円滑な施工にも貢献した。</p>	A
57	篠崎公園	B	<p>・葛西臨海公園では、国内のスイセンの名所4か所から球根提供などの協力を得て「水仙まつり」を3年ぶりに開催した。来園者が少ない冬の季節に、約57,000球のスイセンが咲くビュースポットを創出するとともに、スイセンの各名所の展示物販などで、公園の魅力と賑わい創出を実現した。また、園内の鳥類園では、小学生の夏休み期間にあわせてミニガイドツアーや生体展示を拡充したほか、専門家の協力を得ながら魚類・水生昆虫の市民参加型調査と観察会を実施し、鳥類園の魅力を発信した。この結果、小学生の夏休み期間中の来園者数は昨年同期比の約2倍にあたる7,118人となり、生物多様性の普及啓発にもつながる取組となった。</p>	B
58	葛西臨海公園	S	<p>・武蔵野中央公園では、児童発達支援施設と協働し、ホタルブクロ等の移植や選択的除草を行った。また、多摩地域の絶滅危惧Ⅱ種であるカワラケツメいの保全に取り組み、希少種の保全に貢献した。</p>	S
59	武蔵野中央公園	B	<p>・府中の森公園では、通行が多い花の広場についてインターロッキングに生じていた段差の解消や石畳の据え直しを実施したほか、サービスセンター前の根上対応、南側園路舗装の不陸補修など、園内全体の安全性向上に取り組んだ。また、ソーラーランタン等を園内に飾るワークショップを開催し、公園の新たな魅力の創出・発信につながった。</p>	B
60	府中の森公園	A	<p>・武蔵野の森公園では、4月から6月にかけて重点的にスズメバチ駆除を実施した。この結果、園内のスズメバチ被害の情報や駆除依頼が無くなり、利用者の安心・安全につながった。また、園内のビューポイントをボランティアガイドが分かりやすく解説するガイドツアーにて4イベントを企画・実施したほか、園内の戦争遺跡の普及活動の成果として自治体による現地見学会を5回受け入れるなど、多彩な活動を通じ公園の魅力を発信した。</p>	A
61	武蔵野の森公園	A	<p>・小金井公園では、スケートボード利用が多い槻の木広場の舗装補修にあたり、利用者へのヒアリング結果を踏まえ作業に反映するなど、利用者の立場に寄り添ったきめ細やかな対応を行った。また、近隣小学校と連携し、児童に向けて生物多様性の重要性を伝え、花壇づくりなどの職場体験で公園に関心を持ってもらう機会を設けた。そのほか、公園連絡協議会で関係を構築した地域団体や教育機関と連携し、大花壇で土遊びができる「はらっぱワンデイトリップ」や子ども向けコンテンツを充実させた「ココロの日」等のイベントを開催し、公園の魅力向上につなげた。</p>	A
62	小金井公園	A	<p>・東村山中央公園では、都の生物多様性保全整備工事にあわせて、バードサンクチュアリ観察舎の屋根葺き替えや板壁の塗装などを実施し、景観の改善や快適な利用環境を確保した。また、花壇ボランティアとともに花摘みなどの活動を体験できる「気ままにボランティア」や警察・近隣小学校・高校・東村山ボランティアセンターとの連携強化が奏功し、年間のボランティア数が前年度比約130%となるなど、都民協働活動が大幅に強化された。</p>	A
63	東村山中央公園	A	<p>・東大和南公園では、サービスセンター建替えに伴う都の復旧工事にあわせ、テニスコート周辺において水飲み場補修や防風ネットの設置、ベンチに日よけシェードを設置するなど、利用者の立場に立って機能向上を図った。また、3年ぶりに開催した「みなみこうえん祭り」では、東大和市で活動する団体、アーティスト、近隣高校による地域の特色を活かしたステージプログラムやワークショップなどを展開し、参加者が約7,000人を記録するなど、公園の魅力向上と公園を基盤とした地域の活性化に大きく貢献した。</p>	A
64	東大和南公園	A	<p>・秋留台公園では、クビアカツヤカミキリの発生範囲にあるサクラ被害の点検を強化し、異常の早期発見、幼虫の捕獲・防除に努め、被害拡大を防いだ。また、あきる野市や障がい者関連団体9組織と連携して「ユニバーサルスポーツ祭2022」を開催した。100人を超えるボランティアの運営協力のもとユニバーサルスポーツ体験プログラムへの多数の参加者を得たことは、西多摩東部地区におけるスポーツレクリエーション拠点としての公園の魅力向上と発信につながった。</p>	A
65	秋留台公園	A	<p>・砧公園では、車検切れの車両を使用する事故が発生した。</p> <p>・駒沢オリンピック公園では、車検切れの車両を使用する事故が発生した。</p> <p>・城北中央公園では、スポーツ施設の利用者登録業務において申請者の個人情報を含む書類を紛失する事故が発生した。</p>	A

グループ名	文化財庭園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
66	浜離宮恩賜庭園	S	<p>・グループ全体の取組として、維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積と次世代を担う人材育成を行った。史資料を基に維持管理のあり方を学ぶ庭園維持管理検討会を12回開催したほか、庭園技能の継承・向上に向けた情報の共有、課題の検討、伝統技能に関する年間研修計画を策定する庭園技能連絡会を4回開催した。また、庭園の作庭意図や歴史的背景等を踏まえた景観の保全回復、改修等を進めている点は評価できる。その他、旧岩崎邸庭園の「館内撮影パッケージ販売事業」などの魅力ある自主事業によって収益を上げ、文化イベントの資金等に於て都民に還元するという取組は、これからの文化財庭園の活用の方として高く評価できることから、グループ全体と同様の事例を増やしノウハウの共有・蓄積を進めることが期待される。</p>	S
67	旧芝離宮恩賜庭園	A	<p>・浜離宮恩賜庭園では、10月に園内全体のライトアップイベント「～浜離宮でお月見散歩～将軍の御庭で栗名月を愛でる」を開催した。普段は外観観覧しかできない御茶屋内において、江戸期の行灯でディスプレイした撮影スポット設置のほか、利き酒会や茶会、特別ガイドなどを実施し、庭園の魅力向上と発信につなげた。また、合わせて夜間実施した船上雅楽は、史実に基づく情景の再現のために照明や装飾、装束などに注力した結果、天候の良かった1日のみで夜間来園者が2,200人を超えるなど、庭園文化の普及と庭園の歴史的な価値の向上につながった。</p>	A
68	小石川後樂園	S	<p>・旧芝離宮恩賜庭園では、地域企業と連携して、桜花期を過ぎた5月にライトアップイベント「旧芝離宮大夜会」を開催した。桜が咲いていた時期の気象情報をもとにプログラミングした「光の桜」のショーのほか、地産地消をテーマに桜をイメージした食事の提供などを行った。イベント期間4日間の夜間来園者数は3,500人を超え、庭園の新たな魅力の発信と利用促進ができた。</p>	S
69	六義園	A	<p>・小石川後樂園では、近隣企業や文化施設、自治体、鉄道事業者等と連携して、文化財指定100周年記念事業を実施した。記念事業には講演会やパネル展、伝統芸能公演など、様々な世代に楽しんでいただけるコンテンツがあり、期間中の来園者数が4万人を超えるなど、文化財庭園としての魅力を発信することができた。また、版画の様に何度も重ねてスタンプを押すことで1枚の絵が完成する「重ね押しスタンプラリー」では、連携施設にもスタンプを設置したところ8,000人が参加し、周辺施設での優待特典やコラボメニューの販売など、施設間の相乗効果が生じ、地域連携の強化につながった。</p>	A
70	旧岩崎邸庭園	A	<p>・六義園では、紅葉期と桜花期に、昼夜完全入替制の「夜間特別観賞」として園内のライトアップイベントを実施した。ゆったりと安心してライトアップを楽しんでいただけるように入場者数の制限やルートの工夫をしようえで、土蔵壁面へのプロジェクションやフォトスポットの設置、地元商店の臨時売店による飲食の提供などを行った。アンケートでも好評の声が多く、庭園の魅力向上及び発信につながる取組となった。</p>	A
71	向島百花園	B	<p>・旧岩崎邸庭園では、開園時間外を活用し、婚礼や成人式などに用途を限定した「館内撮影パッケージ販売事業」を実施した。普段は人物撮影のできない館内を独占的に使用して撮影できる特別感が付加価値となり、当初目標の10件を大幅に上回る36件の利用があり、文化財の魅力発信、利活用拡充につながった。また、非公開の地下室及び塔屋ではクイズやパズルピースを集める参加型のミステリーツアーを開催したところ、告知の翌日には定員に達するなど注目され、内容も工夫を凝らしたことで高評価を得た。</p>	B
72	清澄庭園	B	<p>・向島百花園では、イベント開催の広報について、町内会や周辺施設などへのチラシの配付先を55箇所から86箇所に拡大し、合わせてマスコミへもダイレクトメールを送付するなど積極的に行った結果、イベントがテレビ局4社、ラジオ1社に取り上げられた。地元利用者の多い庭園であるにもかかわらず、イベント期間中の来園者が目標を32%上回ったことから、庭園の知名度向上と魅力の発信につながった。</p>	B
73	旧古河庭園	S	<p>・清澄庭園では、消防署や近隣の教育施設等と連携して防災訓練を年2回実施する中で、警察や消防が連絡体制構築に難航していたインターナショナルスクールと粘り強く調整し、訓練への初参加を実現した。そのほか、近年の積極的な取組に対して、深川消防署から感謝状を贈呈されるなど、関係機関等との連携充実により地域の安全・安心に貢献した。</p>	S
74	殿ヶ谷戸庭園	A	<p>・旧古河庭園では、3年ぶりに開催となった「春のバラフェスティバル」において、ネット媒体での広報に注力したところ、来場者数が予定6万人に対して約10万人になるなど、庭園の魅力が広く発信・認知された。また、秋には、バラの開花時期を調整して「秋バラフェスティバル」、「紅葉とバラ、和と洋の秋」などのイベントを開催した。バラの「香り」をメインにした新たな広報活動を展開したところ、過去最高の63,344人の集客を果たし、庭園の新たな魅力創出と発信につながった。</p>	S
74	殿ヶ谷戸庭園	A	<p>・殿ヶ谷戸庭園では、国分寺市や地元の大学と連携して、庭園周辺の崖線散策マップ「むさしのリトルトリップ」を製作した。庭園とその周辺について、自然や見どころ、美味しいお店などの魅力を紹介する内容となっており、国分寺市の施設や観光拠点などで配布・配架されることで、庭園の魅力発信となった。また、マップ発行時期に合わせて、庭園や地域の魅力を伝える崖線散策ツアーを実施したところ、参加者から好評を得た。</p>	A

グループ名	神代植物公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
75	神代植物公園	A	<p>・シヨクダイオオコンニャクが、令和3年6月に続き、令和4年12月に開花した。同一株で5回の開花成功は、日本最多タイ記録（当時）であり、植物育成・管理技術の高さを示した。また、シヨクダイオオコンニャク開花に際し、Twitterにおいて、朝・夕の花芽の状況を細やかに発信したほか、開花のタイムラプス動画を配信したことで、フォロワーが4万人を超えて全国の公園・植物園（動物園を除く）でトップとなった。加えて、臨時開園、開花翌日・翌々日の早朝開園などを独自プレスで周知することで、テレビや新聞など約30件の取材につなげた結果、来園者は開花翌日、翌々日で9,531人、12月では目標比182%の42,940人（本園）となった。その他、園内のフリーWi-Fiの範囲を拡大して簡易にテレワークできるスペースの更なる確保を検討することが期待される。個人情報の漏えい対策として、システムとしてのチェック機能を実装するほか、PマークやISMSの取得の検討を期待する。</p>	A

グループ名	夢の島公園・夢の島熱帯植物館
指定管理者名	アメニス夢の島グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
76	夢の島公園	B	<p>・夢の島公園では、「1dayボランティア」でボランティアを募り、従来と違った層に対してアプローチできた。また、新規事業「植物交換会」で地域住民との連携による不要園芸品の回収、交換を盛り込むなどSDGsの取組に貢献した。その他、イベントや情報発信の企画にあたりアーティストの参画を実現させ、発信力や企画のクオリティを格段に向上させた点は評価できる。加えて、コロナ後及びオリンピック・パラリンピック後の夢の島公園のあり方を踏まえ、アートイベントを含めた新規施策により公園の魅力を高めた点は評価できる。</p> <p>・夢の島熱帯植物館では、3年ぶりの夜間開館にあわせライブ配信を行ったほか、小笠原諸島企画展では島とライブ通信するなど手法を工夫し多様な層に情報展開をした。また、各種SNSを活用した広報を展開するなど、若年層を含む幅広い層に向けた効果的な広報を行った。また、設備の適切な維持補修を継続し、安定的な施設運営を実現した。その他、小笠原諸島の情報発信は夢の島熱帯植物館の特徴の一つとして定着しており評価できる。今後も引き続き、小笠原コヒー等の特産物を含め、更に多くの方々への情報発信が期待される。</p>	B
77	夢の島熱帯植物館	A		A

グループ名	潮風公園・台場公園
指定管理者名	東京臨海副都心グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
78	潮風公園	B	<p>・潮風公園では、潮風橋の開放前の閉鎖期間中に、安全管理上必要なフェンス等の設置に迅速に対応した。また、芝生広場開放までのスケジュール等をホームページにより周知徹底し、適切に維持管理を行った。さらに、芝生広場開放後のイベント実施に関する利用規制を明確化し、イベント主催者の指導を徹底したことで、事故やトラブルを未然に防止した。</p> <p>・台場公園では、隣接するお台場海浜公園管理事務所と連携して台場公園の歴史や史跡の紹介等のパネル展を実施したほか、「続日本100名城スタンプラリー」をお台場海浜公園内の台場公園が望める箇所に移設したことで、台場公園の案内や魅力発信につながった。また、QRコードを読み取ることで再生される多言語の音声案内や、AR技術の活用による大砲のある風景の再現など、DX導入によって歴史と文化を活かした公園管理を実施した。</p>	B
79	台場公園	B		B



グループ名	横網町公園
指定管理者名	公益財団法人東京都慰霊協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
80	横網町公園	A	<p>・復興記念館において、関東大震災100年のプレ企画として「関東大震災写真展」を開催し、公園の存在意義を広く普及啓発した。企画展「関東大震災と渋沢栄一」では、話題性のある人物にスポットを当てることで来館者の興味を引くよう工夫した。また、関東大震災の発生当時の様子を伝える貴重な資料『被服廠跡』は、旧字体のため一般向けには難解で、劣化も進んでいたため、平易な新字体に翻訳するとともに、データ化を行い、歴史的事実を後世に伝承する取り組みを行った。デジタルアーカイブズの視点から資料収集・公開を継続するほか、東京都慰霊協会の独自施策とも連携し、普及啓発活動拠点としての機能を発揮した。</p>	A

グループ名	東京臨海広域防災公園
指定管理者名	西武造園株式会社

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
81	東京臨海広域防災公園	B	<p>・そなえパークの日、豊洲ぼうさいフェスティバルなどの各種イベントを開催し、スタンプラリーやワークショップを通じて参加者が楽しみながら学べる内容としたことにより、防災意識の普及啓発を図った。また、隣接する国営公園と合同で防災訓練を実施するなど、地域連携の強化と防災力を向上させた。</p>	B

グループ名	都立動物園
指定管理者名	公益財団法人東京動物園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
82	恩賜上野動物園	A	<p>・グループ全体の取組として、4園で英語研修や接客研修を行い、案内接客職員の能力向上を図った。</p> <p>・恩賜上野動物園では、140周年事業として、園内での大型写真パネル展示で上野動物園の歴史を紹介するとともに、年間を通じて種の保全やSDGsをテーマとした多様なイベントを開催し、動物園の魅力向上に寄与した。新たに開設した「UENO ZOO STUDIO」では、遠隔にある学校も含め43校、約3,500人の子ども達に向けオンライン授業を実施し、オンラインによる環境学習機能を強化した。</p> <p>・多摩動物公園では、ライオン、レッサーパンダ、マレーバクなどズーストック種20種の繁殖に成功したほか、野生由来個体の精子を活用したチンパンジーの繁殖により貴重な血統の継続に貢献するなど、希少動物保全の取組を推進した。また、季節に応じた企画展示の実施や幼児を対象としたオンラインコンテンツ「Kids and Zoo」を制作し、環境教育に関する取組を充実させている。</p>	A
83	多摩動物公園	B	<p>・葛西臨海水族園では、展示施設の改修を行い、新たな展示施設「サンゴ礁の海」をオープンした。閉鎖循環濾過システムを導入したことで、日本最大級となる生きたサンゴとそこで暮らす生き物の臨場感あふれる展示を実現し、水族園の魅力を向上させた。また、他水族館との共同研究により、世界で初めてミナミイワトビペンギンの凍結精子を用いた人工授精に成功した。冷凍保存精子は国内外問わず輸送可能であり、遺伝的に健全な個体群形成に貢献する意義のある成果を得た。</p> <p>・井の頭自然文化園では、開園80周年事業として地域連携により開催した「まちのどうぶつえんマルシェ」において地元商店18店舗などが出店し、開催2日目はコロナ前3年間の5月土日（GW期間除く）の平均入園者数の約1.3倍の来園者があった。また、恩賜上野動物園140周年と合わせて開催した園外企画展では、野生生物の保全活動や現代の各園の取組等をパネルで紹介し、10日間で約20,000人が来場した。さらに、最寄りの鉄道駅におけるフロア広告やデジタルサイネージ広告の掲出のほか、ラッピングバスによる広報など、地域に愛される井の頭自然文化園の魅力を効果的に発信している。アムールヤマネコやニホンカモシカ等、ズーストック種13種の繁殖に成功し、種の保全の取組を着実に進めている。その他、園内施設の中で相対的に認知度が低い彫刻園に着目し、初その他館共同企画展などのイベントを実施したことは、園の潜在的な魅力を発信した点で評価できる。</p>	B
84	葛西臨海水族園	A		A
85	井の頭自然文化園	B		B

グループ名	都立霊園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
86	青山霊園	B	<p>・グループ全体としては、「申込のしおり」を大幅リニューアルした。わかりやすい案内にしたため、募集期間の当社における問合せ件数は令和3年度の560件に対し、令和4年度は450件と、約20%減らすことに成功した。また、DXを推進し、新規貸付抽選会等の配信や窓口のWEB予約を継続し、令和4年度は新たに、新設された樹林型合葬埋蔵施設の動画による紹介や、東京都事業の推進として新規貸付当選者や墓所工事の電子申請の導入などを行った。</p> <p>・青山霊園では、他施設における開渠付近の利用者転倒事故を受けて園内を点検し、同様の事故発生が予見される開渠側溝部の全てにバリアフリー対応のグレーチングを設置することで事故予防に努めた。</p>	B
87	谷中霊園	A	<p>・谷中霊園では、困障の支障となっていた桜の大木について、樹勢の衰退を受け緊急で樹木医による点検を実施し、都に報告した。都が実施する桜花期前の剪定に向け、都による近隣住民団体との調整に協力した。こうした取組により、高所作業車が使用困難な現場状況にもかかわらず、囲障や墓石等に影響を与えることなく安全な処理につながった。</p>	A
88	雑司ヶ谷霊園	A	<p>・雑司ヶ谷霊園では、「御鷹の松」の樹勢が衰えたことを受け、樹木診断やマツノザイセンチュウの遺伝子調査、土壌調査等を行い、調査結果から周辺墓所に散布された除草剤の影響と判断した。そこで、定期的な灌水による洗浄、除草剤の分解を促すための黒土の覆土、敷き藁、施肥により対策し、樹勢回復を図った。再発防止のため、近隣墓所を管理する花屋に対し、樹勢に影響を与える除草剤の使用を控えるよう依頼した。また、万が一に備え、遺伝子保存により、「御鷹の松」の後継樹を確保した。</p>	A
89	染井霊園	B	<p>・染井霊園では、初めて近隣保育園との協働で園内の落葉清掃を行った。また、回収した落葉を活用して園児らが制作した作品を管理所付近に掲示し、近隣住民や使用者の美化意識向上を図った。</p>	B
90	八柱霊園	B	<p>・八柱霊園では、車での墓参者向けに、車での入場方法や管理事務所等へのルートをドライバー目線で紹介する動画を配信した。また、ノウハウをグループ内で共有し、霊園全体で幅広く活用できるようにした。</p>	B
91	八王子霊園	A	<p>・多磨霊園では、新規貸付申込期間の前に、都民の関心が高い樹林型合葬埋蔵施設2号基の紹介動画を配信した。動画制作にあたっては、カロート内部を含む全容を紹介するため、通常は非公開となる部分の撮影のため手続きを取るなど、使用者の立場に立った工夫をした。</p> <p>・小平霊園では、横断幕の設置や管理事務所職員の動画配信を通じて、使用者の火災予防意識の啓発を図った。また、霊園内火災訓練の実施により、管理事務所職員の火災発生時の対応能力向上を図った。</p>	A
92	多磨霊園	A		A
93	小平霊園	A		A

グループ名	瑞江葬儀所
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
94	瑞江葬儀所	A	<p>・新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方を積極的に受け入れた（都内死亡者の15%を超える632体の火葬を受け入れ）。また、通常の火葬業務への影響を最小限に留めるため、情報収集や他の火葬場との連携により、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の火葬優先枠を状況に応じ増減するなど柔軟な対応を行い、公営火葬場としての責務を果たした。</p>	A